

今は無き養蚕弁財天を祀る山形市漆山黄金神社について

村山 正市

山形市漆山、立谷川を渡り奥羽本線すぐ側に黄金神社があった。旧国道 13 号線から黄金神社までの道は 2m 程しかなく細い。漆山こ線橋から左にそれた道を通った方がスムーズだ。建物の基礎が残り草むらの状態になっている。現在は安永 8 年 2 月建立の弁財天真言の石碑が中央に祀られている。これは安永の大旱魃、安永 5 年の立谷川大洪水などの影響で建立されたものと言われている。現在残された石碑は、昭和 2 年 8 月吉日山口村字道満後藤保寄進の石鳥居、石灯笼明治 4 2 年 8 月 2 0 日建立 2 基、昭和 14 年 7 月 28 日寄付者海和武昌ほか数基、水鉢大正 7 年 8 月 1 日西村山郡東五百川村字水本伊淵富吉建立、明治天皇崇敬碑、教育勅語の碑と林が残るのみである。昭和 50 年代までは参拝者も多くみられた。

ここの弁財天は「養蚕弁財天」といわれ、明治後半、大正、昭和の養蚕が盛んな時期には村山一円から養蚕農家の参拝が見られた。水鉢を見ると朝日町からの寄付もあり、信仰範囲が広がったことが伺われる。一時期は漆山駅止まりの臨時列車が出されたこともあった。正月の元旦参りや五月の祭礼では賑わいを見せた。旧国道 13 号線沿いにも神社の標柱を立てた時期も見られた。山田銀三郎宮司は算置、占いなども行い、人生相談なども聞いてくれた。ト占の弟子を育て、地元漆山、天童市清池に弟子の方がいた。

昭和 28 年 5 月の癸巳年丁巳月巳日に山形西村工場へ高さ 2 尺 4 寸の八臂弁財天を铸造させ、小野田高節の彫刻、須貝庄造が铸造したご神体を祀っていた。兩人とも日展入選の作家である。今どのようになっているかわからない。

今では山田宮司夫婦も亡くなり、昭和 50 年代まで隆盛した黄金神社は石碑と林が残るのみである。ちょうど神社のところに踏切があったが、それも現在は無い。

ナンキンコゾウについて その 2

井上 吉典

まず飛島の人口であるが、最も古い人口統計は寛文 9 年（1669 年）のものが残っており、899 人だった。明治 7 年国勢調査では 969 人なので、この間ほとんど増えていないことがわかる。明治以後はさすがに少しずつ増加しており、昭和 22 年には 1374 人であった。一方、問題の貰い子であるが、同じ 22 年の貰い子は 52 名であり、出身地の調査も行われている。出身地は庄内⑧最上①その他は北海道、秋田、岩手、東京、静岡から若干名